

令和 2 年度第 1 回みえ森と緑の県民税評価委員会におけるご意見

1. 基金事業の実績に対するご意見
 - (1) 危険木伐採事業（紀北町）
 - ・内訳書が明確で、効率性の評価がしやすい。他の市町のモデルとなる内容である。
 - (2) ふれあい広場ベンチ整備事業（川越町）
 - ・朝市の休憩場としてだけでなく、より多くの人に利用されるよう工夫されたい。
 - (3) 集落周辺森林（里山）整備事業（紀北町）
 - ・14,340mの登山道を効率よく整備しており、高く評価する。
 - (4) 播磨 2 号緑地里山整備事業（桑名市）
 - ・実績書からは、たくさんの地元住民が参加して取り組んだ事業であることが読み取れない。実績書への丁寧な記載を望む。
 - (5) 森林環境に関する講演事業及び木製品購入事業（鈴鹿市）
 - ・木製品の整備と併せて講演会を実施していることが非常によい。
 - (6) 森林環境教育事業（南伊勢町）
 - ・学校での取組は学校通信などに記載していただき、保護者や学校関係者へ周知されたい。
 - (7) 森林情報基盤整備事業（県）
 - ・レーザ測量で得たデータを、防災対策に活用されたい。
2. 市町別総合評価に対するご意見
 - (1) 伊賀市
 - ・バランスが良く、幅広い市民が関われる仕組みがあり、本県民税が有効に活用されている。
 - (2) 川越町
 - ・森林のない地域は、木材の消費地となるため、木製品の整備と併せて、木材利用の意義を伝える取組をされたい。
 - (3) 尾鷲市
 - ・新型コロナウイルス感染症対策のため、延期・中止となった取組も、当初の事業計画と併せて実績書に記載されたい。

3. 評価制度に対するご意見

(1) 「情報発信度」について

- ・実績書の記載内容が評価の根拠となるため、「伝える」意識をもって、実績書を作成されたい。
- ・補助を受けた団体等にも、みえ森と緑の県民税を活用した取組であることを情報発信されたい。
- ・ホームページに事業の取組内容を掲載した場合は、その掲載ページを実績書に添付されたい。
- ・「情報発信度」が新たな評価視点として加わることが決定したのが年度末であったため、取組が不十分だったことは理解できる。

(2) 市町別総合評価について

- ・市町における取組が総合的に示され、評価しやすくなった。

4. 基金事業全般に対するご意見

- ・良い取組事例について、その手法など市町に周知されたい。
- ・学校で自然体験などを行う際、森林の少ない地域では、森林に触れ合える場所への移動手段が必要なため、バスの借り上げ料などは必要経費と考えられる。
- ・子どもの発達段階に合わせた教育プログラムで森林環境教育や木育に取り組んでほしい。

5. その他

- ・C評価はダメということではなく「取組は妥当であるが、さらに工夫が必要である。」とされている。今回から評価基準を厳しく変えた意図を踏まえ、よりよい取組に改善していけるよう工夫されたい。
- ・実績書の作成方法を見直していただく意味でも、追加資料は参考とせず、当初提出された実績書を基に、再評価するものとする。